発行月（1/1・4/1・7/1・10/1）

樫の木だより

2024年1/1
第113号

ひとり ひとり ひかる
きぼう

発行：樫の木福祉会（法人本部）
かしの木の会
一宮市冨田字砂原2147
Tel/Fax　0586-63-2111　/　61-1200
樫の木福祉会　ホームページ
http：www.kasinoki.jp/

４年ぶりです！

令和２年から開催を見送ってきました20回目となる「かしの木フェスティバル」を令和５年11月25日(土)に開催いたしました。

【　目　次　】

・1P　目次
・2P　新年のご挨拶（樫の木福祉会理事長）
・3P　新年のご挨拶（かしの木の会会長）
　　かしの木の会全体会の開催
・4P　２０２３かしの木フェスティバル
・5P　　〃
・6P　木曽川高校ブラスバンド部演奏会
・7P　日帰り旅行　かしの木サポートプラザ
　　日帰り旅行　らちぇっと
・8P　法人内研修「意思決定支援」研修、あとがき

法人コーナー

『新年のごあいさつ』

明けましておめでとうございます。

昨年５月８日に、「新型コロナウイルス感染症」が「５類感染症」に移行されました。とは言いましても、様々な利用者さんを支援していますので感染拡大防止策を急に緩めることもできず、手探りの状態が続く１年でした。その間、各事業所の職員や利用者、その家族の方々のご支援ご協力により、大過なくここに新年を迎えることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は、法人の主な行事を以前のように開催できるのか、中止すべきか、あるいは新たな内容で試みるのかを、慎重に検討を重ねた年でした。コロナ感染症が猛威を振るっていた３年間は全く開催できませんでした。この３年間を決して無駄にしてはならない。「ピンチ」を「チャンス」と捉え、行事の目的を再吟味しつつ、思い切った改善改革に繋げてまいりました。春の「運動会」は、事業所ごとに開催し、夏の「かしの木盆踊り大会」は、「らでうす」駐車場を中心に開催しました。11 月には「かしの木フェスティバル」を場所も、内容もリニューアルして開催いたしました。それぞれの行事の開催にあたり、多大なご支援ご協力をいただきました各位に、改めて厚く御礼申し上げます。また、お気づきになられたご意見等をお寄せいただければ幸いに存じます。本年は、従前にも増して、利用者さんの笑顔がたくさん観られる年になるよう誠心誠意努力してまいります。

さて、一昨年の 11 月から始めた「樫の木作業所」の施設改修・増築工事は、昨年７月に完了いたしました。見違えるような快適な施設に生まれ変わったと利用者や保護者様からの喜びの声が届いています。一方、同じように老朽化が進んでいる他の事業所の保護者様からは、「次は私たちの事業所の改修だよね・・・。」との声が聞こえてきています。皆様方のご期待に沿えるよう、次期改修工事計画の策定に努めてまいります。

樫の木福祉会　理事長　北　川　　登

本法人が現在直面している大きな課題は、正規職員の確保の課題です。新規学卒者及び中途採用者の確保が、離職者の欠員を満たしていない状態が続いています。かろうじて、その欠員を非常勤職員でカバーしている現状です。あらゆる方策を駆使しながら、求人活動に力を入れています。

この課題は、本法人だけが抱える問題ではなく、社会的課題です。昨年、11 月１０日の中日新聞の「社説」に「介護職員の不足」と題して述べられています。その要因として、

① 高齢者の急増に反し、労働人口の減少。

② 介護職員の平均月額給与が他の職種より約 ７万円低い。

③ 少子化対策の財源確保等により、財源確保が容易ではない。

が述べられています。

本年度は、厚生労働省の審議会で介護保険の見直しが検討される年度であり、その中で介護職員の待遇改善も重要な検討課題とされています。

本法人にとっても、正規職員の確保と支援業務の充実に向けて、報酬単価の増額に大きな期待を寄せています。

本年こそ、辰年にあやかって、皆様のくらしや健康、法人の福祉事業が昇り調子に良くなるよう皆様とともにご祈念申し上げます。

本年も、引き続きご支援賜りますようお願いし年頭のご挨拶といたします。

かしの木の会コーナー

『新年のご挨拶』

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中、本会の活動に対しまして格別なご支援並びにご理解賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、２類相当から５類へと変更になり、人々の活動にも変化が感じられるようになりました。

本会でも、総会自体は書面による総会となりましたが、バザー委員会の手芸製作会の復活、全体会の開催やかしの木フェスティバルでのお手伝い等少しずつではありますが、活動再開に向けて歩み出しました。

一歩一歩、活動再開に向けて歩みを進み始めた本会ですが、コロナ禍以前の活動にまで戻して行くのは、会員の高齢化等、本会の現状から困難が予想されます。

本会が活動を続けて行くには、活動内容の見直しは急務となってきています。

本会の運営委員会では、会員の活動縮小を念頭においた活動を視野に入れ、今後のかしの木の会のあり方を模索し、協議を続けております。

「どのような活動であれば、会員の皆様が参加しやすくなるのか。」

会員の皆様との対話を通じて模索して参ります。率直なご意見を伺えますと幸いです。

今後とも、変わらぬご理解、ご支援の程、お願い申し上げます。

『かしの木の会全体会の開催』

令和５年 10 月３１日、尾西庁舎 1F 講堂にて全体会を開催しました。

今回の全体会では、前半に４年振りに開催されるかしの木フェスティバルやかしの木の会の今後の方針について説明がありました。後半には事前に募集した会員からの質問にお答えいただく形式で「福祉会の災害時対応等」と題した学習会を行いました。

全体会は４年振りの開催となり、コロナ禍前に比べて出席者は少なかったものの、資料や議事録がほしいとの要望が多く寄せられました。

今回開催されるかしの木フェスティバルは、これまでにない規模でスポーツ、アウトドアといった会場も設けられ、かしの木の会の会員の皆様にもお手伝いいただくことになり、会場等の説明が行われました。

本会の今後の方針としましては、会員の高齢化を視野に入れた大幅な見直しを検討中ですとの報告をさせていただきました。

最後に、樫の木福祉会　野崎事務局長から、事前に質問があった福祉会の災害時対応等についてご回答いただきました。

会員の方からは、通所事業所における備蓄品の有無や避難経路の確保、安否確認の方法など、法人の方針についてお聞きしました。

その他の質問としまして、グループホームのショートステイの申込方法等、その他実際に福祉会のグループホームを利用されている方からの質問もあり、時間が足りないのではと感じられる程、あっという間の２時間となりました。

今後も、このような企画を通し、樫の木福祉会との対話を続けていきたいと思っております。

かしの木の会会長　小杉 ひふみ

法人コーナー①

「２０２３かしの木フェスティバル」

令和５年１１月２５日（土）かしの木フェスティバルを開催しました。４年ぶりの開催ということで、ミッションは従来のフェスよりも新しいチャレンジをして、もっと楽しめるフェスを創ること。楽しいフェスってどんなのだろう？よくわからないので自分が好きなこと、楽しいと思えるものを詰め込んでみました。

今回のフェスティバルを簡単に紹介します。今回は規模を拡大したことにより、会場を３つ用意しました。

①メイン会場「冨田山グラウンド」
ステージイベント、飲食店、車両展示、マルシェ（野菜・花苗販売、製菓販売、手芸品など）フリーマーケット、ふわふわドーム等

②スポーツ会場「尾西河川敷グラウンド」
陸上競技教室、野球教室、各種スポーツ体験（ストラックアウト、フライングディスク、スラックライン、おもしろ自転車）

③アウトドア会場「ウッドデザインパーク」
焚火体験、焚火でおやつ作り、モルック体験、カフェ（ウッドデザインパーク内）

その他、夢ぽけっとでワークショップを開催、喫茶らちぇっとも営業しました。

今回はこれまでのスタイルを変えたことにより準備からとてもバタバタしており、開催されるまで様々な不安がありました。

いざ始まってみると、多くの来場者が来てくださり本当に安心しました。ステージでの賑やかなパフォーマンス、飲食エリアやバザー、フリマ等の賑わい、学生を中心にボランティアさんの元気な声など、フェスティバルが戻ってきたことを実感しました。

新しく実施したアウトドアエリアでは、ゆったりとした雰囲気が流れ、焚火に癒されたり、おやつ作りを楽しんだりしていました。スポーツエリアでは、陸上競技教室で子供たちが元気よく走り、野球教室では元プロ野球選手の話を真剣に聞く様子がうかがえました。

たくさんの楽しめる内容や体験できることを用意したので、１つでも「楽しかった！」や「初めてこんなことした！」というような機会が提供できたのであれば幸いです。

かしの木フェスティバルの「メインテーマ」は開始当初から、

～つなごうてとて　ひろげよう　みんなのわ～

を掲げ実施してきました。そして、今回はメインテーマに加え、意気込みとして「２０２３テーマ」

～ＫＡＳＩ　ＦＥＳ　ＥＶＯＬＵＴＩＯＮ～

と掲げ、進化した姿で開催をしました。

従来のフェスから協力してくださった方に加え、新たな試みをすることで、初めて来場してくださる方やご協力してくださる方も多く、福祉や樫の木福祉会を知るきっかけとなったと思います。このフェスがきっかけで地域との交流や協力してくださる方の輪が広がれば、「メインテーマ」「２０２３テーマ」の融合ができたのではないかと思います。

４年ぶりにかしの木フェスティバルを開催し、特に今回は初めてのことも多く、「初めまして」の出会いも多くありました。

改めてイベントの持つ力を実感することができました。本当に多くの関係者、協力者の方々の支えがあって成り立つイベントであると感じております。当日もたくさんの方とお話をさせていただきましたが、「かしの木フェスティバルってこんなに賑やかなんだ？」と驚きの声を多く頂戴しました。

２０２３かしの木フェスティバルは実験的要素もたくさん詰まっています。様々な意見を集めて、今後に活かしていきます。参加して下さる方々が何か１つでも楽しいと思えるようなイベントになるようしていきたいと思います。何度も言いますが、たくさんの協力やご来場して頂いた方、本当にありがとうございました！

また、来年のかしの木フェスティバルでお会いしましょう☆☆

フェスティバル実行委員長　加藤　栄治

法人コーナー②

「木曽川高校ブラスバンド部演奏会」

９月１６日(土)、新型コロナの流行以来、行われていなかった「木曽川高校ブラスバンド部演奏会」が開催されました。

関係者様のご厚意とみんなの熱い希望で開催が決まったものの、なんといっても４年ぶり。イベント自体が全く初めてと言う人もいたり、色々と忘れてしまっている事もちらほら。過去の記録を見直したり、遠い記憶を思い出しながらやり取りや準備を進め、当日を迎えました。

まだまだ残暑厳しく、体育館の中はかなりの熱気でしたが、大型扇風機を複数用意してあったり、生徒さんや後援会の方々がお出迎えやお手伝いをしてくださるなど、やさしい配慮がたくさんありました。

事前にリクエストした曲が組み込まれたセットリストは、懐メロからイマドキ、アニソンや童謡まで様々。「マツケンサンバ」では、先生が「マツケン」にコスプレしたり、「ジャンボリーミッキー」では生徒さんのダンスレッスンありと、かなり盛りだくさんな内容でした。

最初はイスに座って静かに聴いていた人たちも自然と手拍子が。さらに盛り上がり、立ち上がり、思わず前に出て踊りだしてしまう人もたくさんいました。みんなで歌ったり踊ったり、和気あいあいと騒いだり。生徒さんと一緒に並んで舞台に立ってしまう人もいました。

演奏終了後は、樫の木福祉会のクッキーやラスクなどのお菓子をお礼の品として用意し各事業所の代表者から手渡しました。そして最後に、利用者さんが代表して感謝の言葉をしっかりと伝える事が出来ました。利用者さんの素敵な笑顔が見られ、大変楽しい演奏会となりました。

ご尽力いただいた関係者様、木曽川高校及びブラスバンド部の皆様、本当にありがとうございました。

樫の木作業所　　松元　真美子

法人コーナー③

日帰り旅行　かしの木サポートプラザ

今年度は新型コロナウイルス感染症が「5類」へと移行し、3年余り続いているコロナ対策の環境は大きく変化しました。

そうした背景から必要な感染対策を取りつつも、今年は全員で参加して絆を深め合える良い思い出となるように、美味しい食事や宴会を目的とした「サポートイン南知多」と遊びや買い物を目的とした「南知多ビーチランド」への日帰り旅行を計画しました。

「サポートイン南知多」は食事会場が車椅子も入れる広い場所で、多機能トイレも近くにあり、移動や援助にスムーズな対応がとれました。食事はきざみ食やミキサー食など利用者に合わせての提供をしていただき、安心して食事を楽しむことができました。会場にあるステージではカラオケを利用することができ、食後に楽しまれる利用者も多くみえました。ある利用者さんは様々なスタッフにも「歌って」とマイクを手渡し、利用者、スタッフが一緒になって歌うステージに会場も大盛り上がりでした。

「南知多ビーチランド」では魚やペンギンへの餌やり体験や、アシカに触れる体験ができる場がありました。アシカの感触を聞いてみると、「ザラザラしていた」「冷たかった」など驚きや発見の言葉を聞くことができました。途中、パラパラと降っていた雨が本格的に降り出し、急いで場所の移動が必要だった場面でもスタッフが協力し合って適切な誘導を行うことができました。全員参加の旅行は皆で楽しみを共有できた大事な思い出となりました。

かしの木サポートプラザ　　金神　龍介

日帰り旅行　らちぇっと

コロナ禍で、外出も旅行も制限される少し前の旅行のスタイルは「安・近・短」が流行っていました。日帰り旅行ですので「安い・近くで・短日程で」は、あたりまえなのですが、らちぇっとの日帰り旅行のスローガンは「安・近・楽」です。（楽は、らくにではないですよ。）「安全に・近場で・楽しく」ということです。

ということで、らちぇっとのフロアのみなさんは、10月の末に岐阜県の河川環境楽園公園にある、淡水魚水族館「アクアトトぎふ」に行ってきました。

3グループに分かれて見学をしたのですが、どのグループのみなさんも、日ごろ見慣れていない大きなナマズや、かわうそ、サンショウウオなどを見て、驚いたり、不思議がったり…。

また、旅行の楽しみといえば「昼ごはん」。自分の好きなメニューを注文して、フードコートのテラスでいただきました。もう一つの楽しみは「お土産」これも思い思いのものを買って帰ってきました。

喫茶「らちぇっと」で働くみなさんも、旅行に行きました。行き先は「セントレア」中部国際空港です。なんと、切符を買って名鉄電車での旅です。あまり公共交通機関を利用しないみなさんには、よい経験ができたと思います。空港のデッキで大空に向かって飛び立つ旅客機を見て、ミュージアムでコックピット体験をし、レストランでランチ、ショップでお土産購入。こちらも楽しい旅行のスタイル「見る・食べる・遊ぶ」の「る・る・ぶ」でした。

「アクアトトぎふ」に行ったみなさん、「セントレア」に行ったみなさん、どちらも「安全で・近場で・楽しい」旅行ができました。

らちぇっと　吉田　彩乃

法人コーナー④

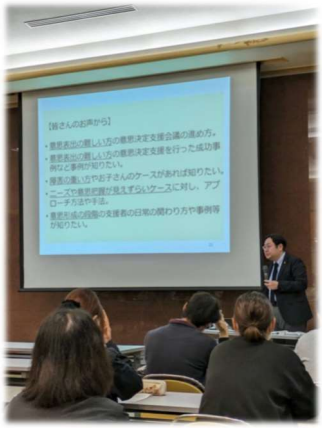
法人内研修「意思決定支援」研修

令和５年 11 月 10 日（金）尾西商工会館において淑徳大学教授の鈴木敏彦先生をお招きして「意思決定支援の基本～意思決定支援を日常的に根付かせるために～」と題して研修を行っていただきました。淑徳大学と言っても愛知県ではなく、千葉や埼玉にキャンパスを構える関東の大学です。当日は勤務後の夕方からの開催にも関わらず、関東からお越しいただいた鈴木先生から障害福祉の基本となる考え方を学ぶべく 80 名以上の職員が集まり、熱のこもった研修の機会とする事が出来ました。

意思決定支援とは、私たち職員が日々関わっている利用者さんの意思決定を尊重していくためのプロセスです。障害の程度やコミュニケーションが取れるかどうかに関係なく、人間は誰しも意思があるという考え方のもとに行っていくものです。ご家族や支援者が当たり前に本人に選んでいただく、決めていただけるようにするためには樫の木福祉会の職員集団全体で共通認識を持ち、本人が意思決定できるまでの環境や意思表出できるような関わりが求められていると改めて感じる事が出来ました。

鈴木先生の研修は、私自身何度か受講していますが、話し方にも強弱があり、どこがポイントになるか分かりやすい研修です。そして何より、神奈川県の津久井やまゆり園で起きた悲劇の後入居されていた方たちの意思決定支援を行った実践も交えて話していただけることで、受講していた職員が改めて命の大切さと利用者さんの人間としての尊厳を再認識する機会となりました。

神奈川県での実践でも３年かかりましたと言う話をしていただき、この研修が法人内で今まで行ってきた支援を再度見直し、当たり前のこととして意思決定支援が根付いていくためのスタートラインに立ったように感じています。



今年度、研修委員会では職員のスキル向上のため様々な研修を企画しています。それぞれに事業所での勤務もあり、参加できない職員もいる中で今回の研修は動画も撮影し回覧できるようにしています。

今後も利用している本人さんの意思を大切にした支援ができるように研修を計画していきたいと考えています。

樫の木福祉会　研修委員会

旧年は、私どもの活動にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございました。本年もできるかぎり旬な情報発信に取り組んでいく所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。　　広報委員一同